年間授業計画

高等学校 令和７年度（３学年用） 教科 国語　　科目 文学国語

教　科： 国語　　科　目： 文学国語　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 高等学校 文学国語（数研出版） ）

教科 国語 の目標：

【 知 識 及 び 技 能 】生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 文学国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	1 昭和中期の小説 ・おれは、なぜ家を欲しがっているのかをまとめる。 ・一つ一つの表現に隠された寓意を丹念に読み取る。 ・「私」にとって、「鍋セット」とは何であったかを考える。 ・誰かの言いなりにならず、自分の考えをもって将来生きるためにはどうしたら良いか、三分程度のスピーチをする。	「赤い繭」安部公房	○	○	○	【知識及び技能】 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力、判断力、現力等】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。	○	○	○	11
	定期考査						○	○		1
	2 海外の小説 ・二人の理想家が出会い、すれ違い、しかしなおリスペクトは残るというドラマとして読みを深めさせる。 ・二人の理想家の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・作者の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	「藤野先生」魯迅	○	○	○	【知識及び技能】 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力、判断力、現力等】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 考えを整理して作者の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
2学期	3 大正の小説 ・本文全体から、先生とKの人柄を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・先生とKがなぜ心がすれ違ってしまったのかをまとめる。 ・作者がこの作品の結末のような設定にしたのはなぜかを考える。	「こころ」夏目漱石	○	○	○	【知識及び技能】 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 【思考力、判断力、現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1

	2学期	4 大正の小説 ・この時代の人の考え方にふれ、作品への理解を深める。 ・登場人物の立場や状況を踏まえて整理し、実は何が起こっているのか考える。 ・人間の心の理解しがたさを踏まえ、考えを深め、発表しあう。	「こころ」夏目漱石	○	○	○	【知識及び技能】 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思考力、判断力、現力等】 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	○	○	○	14
		定期考査						○	○		1
	3学期	5 海外の小説 ・中島敦、安部公房、村上春樹らが注目していたカフカの魅力を理解させる。 ・抽象的な登場人物、視覚化される作品世界について考察する。 ・謎の多い内容であるため、生徒が自分なりにどのような読み方をしたのか話し合う。	「掟の門前」フランツ・カフカ	○	○	○	【知識及び技能】 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使えている。 【思考力、判断力、現力等】 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 作品が持つリズムや文体が与える印象を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○	○	○	8
		定期考査						○	○		1 合計 62